

# 海や陸の『豊かさ』をめぐって — 海や陸はだれのものだろうか —

ゆたかさとは何でしょう。それを守るとはどういうことでしょうか。SDGsのSD(持続可能な発展Sustainable Development)は、今から30年ほど前1987年の「環境と開発(発展)に関する世界委員会World Commission on Environment and Development」の報告書で示されたもので、「将来世代のニーズを損なわずに現在世代のニーズを充たす開発」と定義されました。海や山の恵みが将来も枯渇しないよう、**ほどほどに**これをいただいて**ほどよく**開発し発展することだろうと、感覚的にはわかります。しかし、その程度やそもそも開発や発展が何なのかは、実は明らかではありません。

## 将来世代を視野に入れる

日本では特に2011年の東日本大震災を機に、自然災害がその場所の開発のあり方の結果としての人的災害を伴うことが意識され始めました。世界でも各種の災害が起きています。将来世代のニーズを考える際には、今後起こりうる災害も視野に入れる必要がありますね。



図1:リアス海岸で山と海が近接する気仙沼の漁港

## 開発の主体は誰か？を問う

人間の生産活動に役立つ自然の恵みは資源と呼ばれます。海の資源、山の資源とは何でしょう。海には魚や貝などが生息していますが、海は大量の塩水をたたえ、海底には石油や天然ガスがあるかもしれません。山は岩石や地層でできている、木々の成す森林は切り出せば木材にも燃料にもなります。何が資源かはあらかじめ決まっておらず、人間に役立つと気づかれたときに資源となるのです。そこに潜在的に権利や利益が発生します。しかし、誰が誰から許可をもらって開発を進めるのでしょうか。採掘や伐採は一人ではできませんが、開発の結果、得られた利益は誰のもののでしょうか。誰でも入れる場所には「共有地(コモンズ)の悲劇」が発生するといわれますが、所有者が定まっても、あるいは定めることや所有者の権利の範囲をめぐっても、多くの問題が発生します。守られるべきは海や山そのものだけでなく、そこに暮らす人びとのゆたかさでもあるはずですよ。

## 考えてみよう

- ✓ 共有地(コモンズ)の悲劇の考え方や反対意見について調べ、共有地(コモンズ)にはどのような場所があるか、一般論と身近な例の両方を考えてみましょう。
- ✓ SDGsのターゲットに、開発途上国のことが何度も書かれているのはなぜでしょうか。具体的に問題が生じた事例には、どのようなものがあるのでしょうか。
- ✓ 海に関しては漁業権という権利がありますが、これはどのような権利でしょうか。そこに問題があるとしたら、どんな問題でしょうか。まず調べずに考え、その後調べてみて、もう一度考えてみてください。